

海外先進教育実践プロジェクト「リスク管理共通教育中核教員団の養成」

ジョージワシントン大学 FD 研修会 調査報告

(とりまとめ責任者：鈴木，遠藤)

1. 調査概要

1) 調査期間

2006年11月26日(日)～28日(火)

2) 訪問先

ジョージワシントン大学

The George Washington University (GWU)

School of Engineering & Applied Science (SEAS)

Department of Engineering Management and Systems Engineering (EMSE)

(所在地：1776 G St., N.W. Washington D.C. 20052, USA)

3) 調査団メンバー

教員：鈴木 勉 (リーダー)、遠藤靖典 (副リーダー)、岡島敬一、岡本 健

(11月25日(成田発)同日着～11月29日現地発、30日成田着)

掛谷英紀 (24日発～28日 CMU に移動)

庄司 学 (26日発～29日 CMU に移動)

学生：金沢史明 (岡本研究室, D2)、李 召熙 (鈴木研究室, D2)

現地世話人：村尾 修 (長期派遣)

4) GWU 側対応スタッフ

Professor Harrald

Greg Shaw (Organization Risk/ Business Controversy Planning)

.....

.....

.....

5) 目的

米国ジョージワシントン大学 (The George Washington University; GWU) において、クラス視察、セミナー、実習などのFD活動を実施し、教育方法・技術の研鑽を行う。

6) 内容

- ・ 大学／学部／学科のコンセプトおよびカリキュラムの紹介
- ・ 授業参観による教授法および教育方法の研修
- ・ ファカルティとのディスカッション
- ・ スタッフや大学院生へのインタビュー：成績評価，授業評価の方法，コミュニケーション手段，Webの活用，TAの使い方など
- ・ 施設・図書館の見学
- ・ 教材等の情報の入手

写真：全体写真

2. 調査日程

11月26日（日）

午前 9:00 集合，メンバーによるキックオフ・ミーティング

- ・ GWUの概要とカリキュラム／スタッフ／教育環境に関する説明・レクチャー（村尾先生）
- ・ Institute for Crisis Disaster and Risk Management (ICDRM)における危機管理・リスクコミュニケーション（リスクリテラシー含む）の教育システムに関するレクチャー（村尾先生）
 - カリキュラム紹介／教授法，コンセプト紹介，授業概要，Web活用方法，教材，リスクリテラシー概念等
 - 質疑／意見交換

昼食（Prof. Harrald, Greg Shaw, 関根氏）

午後 1:30 カリキュラム／スタッフ／教育環境に関するインタビュー調査

- ・ 関根氏へのインタビュー（議事録：遠藤）
 - 自己紹介
 - ……（議事録参照）……
 - ……（議事録参照）……

11月27日（月）

午前 9:00 GWU/ICDRM 組織・研究活動概要紹介（Prof. Harrald）

午前 9:20 FD 活動

- ・ ファカルティミーティング準備
 - 方針・内容の検討
 - 説明資料準備

昼食

午後 1:30 FD 活動

- ・ ファカルティミーティング（記録：岡島）
 - GWU側参加者：

- ◇ Harrald
- ◇ van Dorp (simulation/Quant. Analysis)
- ◇ Ryan (Security)
- ◇ Frank (Cyber Risk)

- リスク工学専攻の紹介（組織，教育カリキュラム）（鈴木）
- FD と今回の調査目的（遠藤）
- ファカルティ相互による研究内容，教育システムに関するディスカッション

午後 3:00 Dean 表敬訪問

- ・ Timothy W. Tong (Dean, Professor of Mechanical Engineering, SEAS) 表敬訪問

午後 4:30 FD 活動

- ・ メンバーによるディスカッション（於 Marvin Center, 記録：?）

午後 7:10 講義参加／授業視察

- ・ 教授法および教育方法の研修

11 月 28 日（火）FD 活動，とりまとめミーティング，解散

午前 10:00 FD 活動

- ・ 組織・講義の調査（分担作業）
 - (役割分担)
 - (役割分担)
- ・ 大学院生へのインタビュー（担当：金沢，李）

昼食（世界銀行訪問，関根氏）

午後 1:10 世界銀行 InfoShop 訪問

午後 1:30 FD 活動

- ・ 組織・講義の調査（分担作業）
- ・ 大学院生へのインタビュー（担当：金沢，李）

午後 6:00 とりまとめミーティング，解散

3. FD 研修（記録：遠藤）

①2006 年 11 月 26 日 9:00 - 12:30

②場所：GWU, 1776G, B1 室

③講師：村尾修

④参加：鈴木、村尾、遠藤、掛谷、岡島、岡本(健)、金沢、李（敬称略）

⑤内容：

数ヶ月前より GWU にて調査・研究を行っている村尾助教授による FD 研修会を行った。以下、FD 研修会における内容を以下にまとめる。

3.1. 米国の大学について

- 教員が教授法についてオリエンテーションを受ける組織を持っている大学がある。

3.2. 米国の risk について

- 米国では危機管理の学術的体系が出来ており、危機管理の中でさまざまな学問が体系作られている。
- 今の米国はテロ絶対阻止(homeland security)を中心に動いている。
- risk といっても、incident→emergency→crisis management→disaster→catastrophe と、出来事の規模によって定義が異なり、それぞれの状況に対する management がある。

3.3. GWU について

- TA の使い方は、マニュアル・オリエンテーション等、大学全体で決めている。これに関する情報収集は、学生へのインタビューが必要。
- 授業の作法について、授業の最初に伝えている。
- 学生は半期 3 コマ位しか取らない。密度は濃い。
- 授業において、学生と教授の距離が近い。
- パワーポイント等の資料は副次的に扱われ、学生に考えさせることが多い。
- Blackboard という web システムがあり、授業毎にシラバス・授業資料・宿題・連絡事項・参考文献等を一括管理している。

4. 聞き取り調査

1) EMSE および ICDRM における教育システム・教育方法全般（鈴木・遠藤）（記録：遠藤）

①2006年11月26日 14:00 - 17:30

②対象者：関根純子氏（D.Sc. Candidate in Systems Engineering: 博士課程学生）

③内容：

現在 GWU の博士課程学生である関根純子氏に対する聞き取り調査を行った。以下、聞き取り調査における内容を以下にまとめる。

- 関根氏は GWU の doctor course で supply chain を専門としている。
- EMSE は 4 つのコースから構成されており、各コースはオーバーラップしている。
- Blackboard について
 - Blackboard を管理する専門職員がいる。
 - 大学にとっては投資になっている。
 - Blackboard を通して質問もでき、教材をポストしてあるので、学生にも「知らない」という言い訳が出来ない。
 - 学外からもアクセス可能である。
 - 情報伝達が早く、情報量も増える。
 - 学生は使うことが前提。使わないと情報が何も得られない。

- 一方で、管理が大変であり、教員もトレーニングが必要。
- 学生のコスト意識が高い。例えば、月曜日の休講が多いと訴訟になる。
- 知的財産としての意識が高い。
- 大学院生にはキャリアパスの意識があり、リスクマネジメントの教員の多くが省庁関係なので、アカデミックのアプローチと言うよりは実用的知識になっている。そのため、非常に熱心である。
- 学生による授業評価を行っている。教員は直接触れない。
- 大学院は、それがキャリアにとってどれだけ有利かを考え、自分の出身大学よりいいところに行こうとする。そのため、多くが社会人であり、したから上がってくる学生は少ない。
- TA について
 - TA はオリエンテーションがあり、最低限の **evaluation**(口述テスト)を課される。
 - TA 同士の相互評価がある。
 - 最初のセメスタはオンラインで宿題がある。
 - 各 TA には机が与えられる。
 - TA の定義は教員によって違うが、**homework** の **assignment** が多い。
 - TA の数はコースにより違うが、1 コマ 1 人が普通。
 - 1 コマ TA をすると、1 単位の授業料が免除。
- 学生の成績は厳密。C が 2 つで退学になる。
- 成績のガイドラインは明確に決まっていない。
- 教員の評価機関はない。
- 授業評価
 - 授業中に紙を配り、教員が集計。
 - TA は評価しない。
 - 学生への直接の **feedback** はない。
- 学生の多くは会社からの派遣や奨学金で来ている。
- 米国では会社に入ってから研修がないので、大学院で即戦力作りが必要。
- 授業の仕方は、例えば、前に立って講義、**discussion** 形式等、色々。但し、**discussion** 形式は授業のポイントが把握しにくくなり、また、教授や TA の腕による。
- 修士論文は選択科目であり、必修ではないが、Ph.D に上がる学生はとるケースが多い。基本的に学生には机はない。
- Ph.D の取得は **paper submission** が **requirement** となっている。

2) ICDRM・筑波大学ファカルティミーティング（鈴木・遠藤）（記録：岡島）

①2006年11月27日 13:30 - 15:00

②参加者：

GWU John R. Harrald (Professor and Director, ICDRM, EMSE)

Frank Fiedrich (Assistant Professor, EMSE,ICDRM)

J. Rene van Dorp (Associate Professor, EMSE,SEAS)

Julie J.C.H. Ryan (Assistant Professor, EMSE,SEAS)

③内容 (テーマごとに整理し, まとめる)

3) ICDRM 所属学生に対する聞き取り (金沢・李) (記録: 金沢・李)

【学生 A】

- ①日時
- ②対象者
- ③内容

【学生 B】

- ①日時
- ②対象者
- ③内容

【学生 C】

- ①日時
- ②対象者
- ③内容

【学生 D】

- ①日時
- ②対象者
- ③内容

5. 授業評価 (遠藤)

1) 授業評価の方法

GWU においても、学生による授業評価を積極的に行っている。もともと授業評価自体がアメリカから導入されたものであることを考えると、GWU の評価に対する取り組みは特別なものではないと思われる。

授業評価の具体的方法は次の通りである。

1. 授業中に授業評価用のアンケート紙を配布し、学生が記入する。
2. 授業終了後、アンケート用紙を集計する。その際、TA は評価しない。また、教員はアンケート用紙に触れることはない。
3. 集計結果は教員へ戻されるが、学生への直接のフィードバックはない。

2) 授業評価シート

授業評価シートにおける質問項目は以下の通りである。

○ 基本情報：

- Academic Evaluation of EMSE Course
- Professor
- Semester

○ 質問項目：

1. Compared to other courses you have taken, the required workload is:
(A)Light (B)Moderate (C)Heavy (D)Very Heavy
2. How many hours do you spend preparing for each class period?
(A)2 or fewer (B)3-4 (C)5-6 (D)7 or more
3. The assigned materials (e.g. texts, extra reading, project(s)) are useful in understanding the course.
(A)Strongly Agree (B)Agree (C)Neutral (D)Disagree (E)Strongly Disagree
4. In this course, have you acquired knowledge that will be useful in the future.
(A)Yes (B)No
5. In retrospect, would you have taken this course?
(A)Yes (B)No
6. Exams and/or papres are appropriate to the material covered.
(A)Strongly Agree (B)Agree (C)Neutral (D)Disagree (E)Strongly Disagree
7. The exam questions are clear.
(A)Strongly Agree (B)Agree (C)Neutral (D)Disagree (E)Strongly Disagree
8. Your Grad at midterm:
(A)A (B)B (C)C (D)D (E)F
9. Class presentations are clear and well organized.
(A)Strongly Agree (B)Agree (C)Neutral (D)Disagree (E)Strongly Disagree
10. The pace of the course is:
(A)Slow (B)Satisfactory (C)Fast
11. The instructor is able to impart knowledge through lecture or discussion.
(A)Strongly Agree (B)Agree (C)Neutral (D)Disagree (E)Strongly Disagree
12. Considering the class size, the instructor encourages independent thought, participation and discussion.
(A)Strongly Agree (B)Agree (C)Neutral (D)Disagree (E)Strongly Disagree
13. The instructor is available and helpful when sought outside of class.
(A)Strongly Agree (B)Agree (C)Neutral (D)Disagree (E)Strongly Disagree
14. Your overall rating of the instructor, (A) being the most positive and (E) being the least positive:
(A)A (B)B (C)C (D)D (E)F
15. Your overall rating of the course, (A) being the most positive and (E) being the least positive:

(A)A (B)B (C)C (D)D (E)F

16. If you have any comments, PLEASE PRINT them on the back.

3) 授業評価の仕組みに関する考え方

GWUには教員の評価機関はない。すなわち、授業評価に関しても、授業の質向上のために各教員が私的に利用する場合はほとんどであり、それが教員への評価に戻ってくることはない。また、集計結果が学生に直接フィードバックするような手段(例えば集計結果を冊子にまとめて発刊)がないため、学生は授業評価の結果も、それがどのように生かされているかも、直接知る術はない。

4) 評価および筑波大学における FD 改善のための提案・課題・可能性の検討

筑波大として、GWU から学ぶべき授業評価の改善点はほとんど見出せなかった。筑波大のシステム情報工学研究科は昨年までに、研究科 FD 委員会を中心として、授業評価の具体的プロセスを策定し、さらに、教員の教育業績評価への道筋をつけ、すでに具体的なアクションを起こしつつある。GWU の授業評価に関するノウハウ・進行度合いがアメリカの大学全体のどこに位置するかは今後の調査を待たなければならないが、少なくとも GWU と比べても、本研究科の取り組みは決して後塵を拝するレベルにはないと考えられる。

6. TA 利用のしくみ (遠藤)

1) TA に対する考え方

まず、アメリカにおいては、大学院は日本とは異なり、スキルアップのための有効な手段として広く認知されている。アメリカにおいては、日本の企業における研修期間はほとんどなく、新入社員といえども、入社時から即戦力として活用するところが多い。そのため、企業における研修期間の役割を大学院が担っているという側面を持つ。また、大学院修了という履歴はキャリアアップの際にも有利に働くので、多くの大学院生は、大学を卒業して一度社会に出た後で戻ってくるケースが非常に多く、また、自分の卒業大学よりもよりレベルの高い大学院への入学を希望する傾向がある。そのような動機を持って大学院生活に臨むため、大学院在学中の研究・教育活動に対する履歴も、キャリアアップ・スキルアップに密接に関連し、多くの学生はそれらの履歴作りに非常に食欲といえる。

2) GWU に見られる TA の特徴

アメリカにおける TA は、日本のそれとは大きく異なり、教育・研究実績としての評価を受けている。GWU に見られる TA における特徴を以下に列挙する。

1. TA の採用は、学長または学部長のサインを有する大学公式の辞令として伝達される。
2. TA としての勤務は履歴書に記述でき、社会的にも認知されている。
3. TA としての給料に相当する経済的メリットとして、1 講義の TA に対して大学の 1 単位分が免除となる。

4. TA 採用時には、専用のスペースが割り当てられる。

3.については、GWU の場合、授業料は単位数で決定される。1 単位約 1000 ドルであり、大学院 1 講義(半期、2 時間半)は 3 単位なので、1 講義を受講するためには約 3000 ドルの授業料を必要とする。つまり、TA の給料は半年で 1000 ドルと考えられる。

4.については、GWU の場合、大学院修士課程において、修士論文の作成は必修ではない。それと関連して、研究室に配属されることもない。すなわち、日本の大学院と異なり、学生は研究室に配属されないため、机・椅子を含めた自分のスペースが大学内に存在しない。そのため、TA として専用のスペースが割り当てられることは非常なメリットがある。

以上より、TA は奨学制度としての意味合いも多分に持っている。

3) TA の選考

以上のように、TA の社会的地位・経済的メリット・研究環境上のメリットは非常に大きく、TA になるとならないとでは大きな差異がある。そのため、多くの学生が TA を希望する。そこで大学側は、以下のような手続きで TA を選考する。

1. 希望者より履歴書および、与えられたテーマに関するレポートを提出する。
2. レポートの内容により TA を選考する。
3. 選考された学生に対して、TA のガイドライン・授業の進め方・教授法・Blackboard(GWU で採用しているインターネットシステム)をはじめとしたオリエンテーションを実施する。
4. オリエンテーション毎に口述テストやレポート提出を行う。
5. 正式な辞令が交付される。

特にオリエンテーションは内容が充実しており、

- Guidelines on Graduate Teaching Assistantships at TWU
- Policy Briefing fo GTAs
- Professional Development Workshops
- What GTAs Need to Know About Blackboard
- What GTAs Need to Know About the Blackboard Gradebook
- Commenting on Student Writing: Techniques, Technologies, and Useful Skills
- Discussions Skills Workshop
 - Rights and Responsibilities in the Teaching and Accommodation Process
 - Universal Design for Learning
 - College Writing
 - Presentation Skills
- Graduate Teaching Assistant Program Orientation

等、多彩なプログラムが実施され、そのプログラム毎にレポート提出が要求される。

5) TA としての職務

TA に着任後は、自分が希望する、または教員より要求される講義を担当することになるが、自分の専攻で、自分が最も指導を受けている教員の講義のサポートを行うケースが多い。多くは担当する講義のレポートの採点を行うが、責務は教員の考え方に依存するので、レポート採点にとどまらず、幅広い職務の遂行が要求される場合もある。また、TA 同士の相互評価や、大学への定期的なレポート提出も義務付けられており、TA に採用されたからといって安穩としていられるわけではない。TA 採用のメリットは大きいですが、それだけに責任も大きいといえよう。

6) 評価および筑波大学における FD 改善のための提案・課題・可能性の検討

現在、筑波大学における TA の配置は、大学院前期課程においては後期課程学生を、大学学類においては後期課程および前期課程学生を割り当てることができるようになっている。それを踏まえて、現在 TA に関する問題点を列挙してみよう。

○ 一般的状況

➤ 大学院の位置付け

「以前の大学が今の大学院」とも言われ、キャリアアップ、スキルアップを目的とした学生が少なくなっているのが実情である。

➤ 学生の経済的状況

大学院入学の学生は経済的に比較的恵まれている。また、そうでない学生も含め、多くの学生がアルバイトを行っている。それらから得られる収入は、TA として得られる収入と遜色ない。

➤ TA としての経歴

日本社会では、大学での TA 経験はほとんど価値を認められていない。

○ 筑波大学固有の状況

➤ 予算的な制約

予算が縮小傾向にあり、TA の確保が困難になっている。そのため、TA の必要な講義の見極めが必要である。

➤ 博士後期課程と前期課程の学生の扱いの差異

博士後期課程の学生の TA 優先割り当てという方針が打ち出されている。

➤ TA の役割に対する考え方

現状では、TA の役割は講義に関する諸々の雑務を担当するにとどまっている。一方で、実験の場合は、試問以外のほとんどを TA が担当する場合もあり、TA に必要とされるスキルは、担当する講義・実験で大きく異なる。

以上を踏まえて、筑波大学としての TA 制度について提言を行う。

○ 博士後期課程学生の優先的な TA 配置(学類)

現状どおり、博士後期課程学生へ TA を優先的に配置する。また、TA 採用に当たっては、簡単なレポートを義務付ける。博士前期課程学生への割り当ては、後期課程学生の配置終了の後に行う。その際も、簡単なレポートを提出し、TA 選考の評価に用いる。

○ TA のスキルアップ

TA のスキルアップのため、TA のガイドラインおよび教授法・採点法のオリエンテーションを行う。

○ TA の給料

TA を必要とする講義を精査し、現在の TA の数を削減することにより、TA の給料を大幅に向上する。

○ TA に対する社会的評価のために

学長もしくは学部長による TA 採用の辞令を交付する。

一朝一夕で TA システムの改革を行うことには困難が伴うが、する価値は十分にあると考えられる。

7. 施設・設備（岡島）

1) キャンパス

GWU はワシントン DC の中心部にあり、White House 西側に位置している。図 1 は学生用に配布される Bulletin に掲載されているワシントン中心部概略図である。図の中央 Washington Monument を中心に、北に White House、南に Jefferson Memorial、西に Lincoln Memorial、東に Capitol が十字状に配置されており、GWU はその北西にあたる。周辺には政府機関、世界主要機関が多数あり、特に International Monetary Fund (IMF) や World Bank、Department of State と隣接しているロケーションにある。それ故に政治学、外交政策、公共政策などの研究が盛んであり、政府関係機関から多くの Guest Speaker を招いている。EMSE で取り組んでいるテロ対策研究も場所柄研究重要度および周辺組織からの要望が非常に高いと推察される。GWU は他に北西部の Mount Vernon にもキャンパスを持つが、EMSE を含め、ほぼ主要な組織が DC 中心部 Foggy Bottom キャンパスに集中している。

キャンパスは 100 近い建物で構成されており、さながら一つの街を形成している。図 2 は同じく学生用に配布される Bulletin に掲載されているキャンパスマップである。EMSE は図右方向 White House 寄りの 1776G ビルに位置し、EMSE の属する School of Engineering and Applied Science (SEAS) の本部は図中央左の Tompkins Hall of Engineering ビルにある。キャンパスは数ブロックに跨る広さを持ちその間を一般道が縦横に通っているが、休み時間には学生達が次の講義への移動に出てくるため、道路もキャンパスの一部といえる (図 3)。

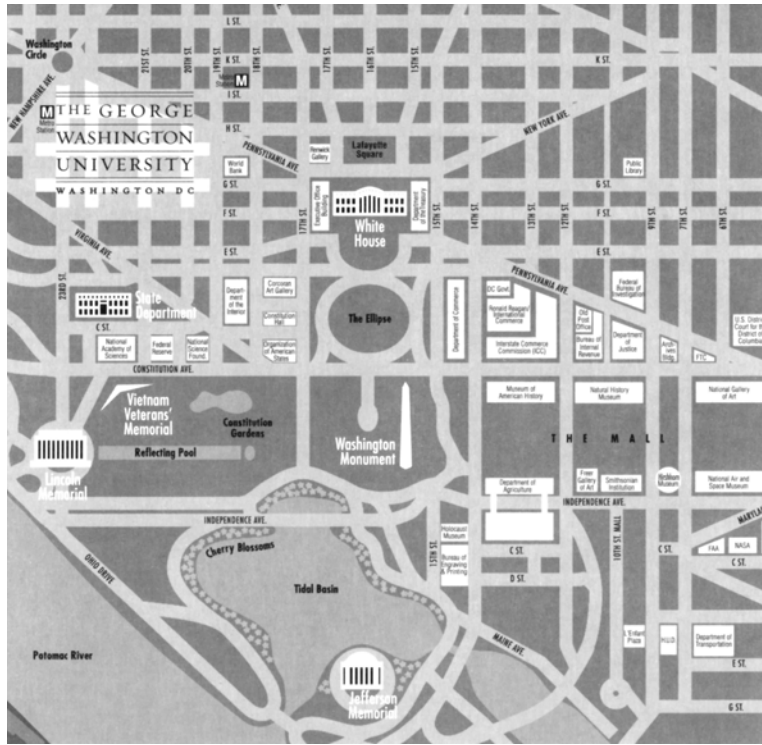


図1 ワシントンDC 中心部概略図

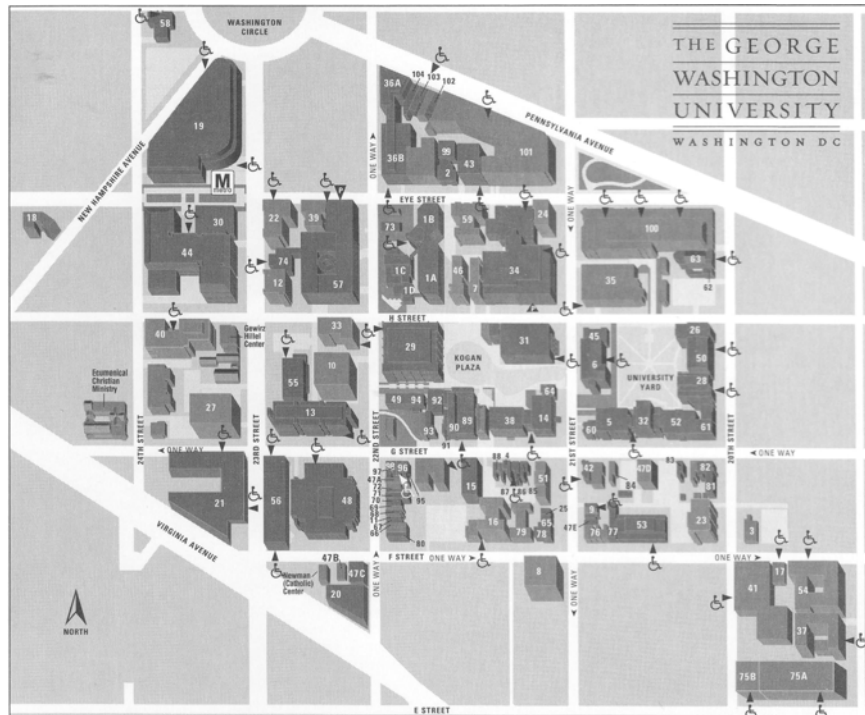


図2 キャンパス建物配置図



図3 キャンパス風景

2) EMSE 施設 (1776G ビル地下1階)

EMSE は 1776G (図4 : 1776G 入口) の地下1階に位置しており、およそ 15 の教室の他、教員室、研究室、PC ルーム、休憩室などが存在する。各教室は日本の大学の平均的な講義室よりも小さく、ゼミ室並みの広さであり、少人数教室が基本となっている。特筆すべきは基本的にどの教室にも一般的な長机が無く、ノート用ミニテーブルのついた椅子のみが置かれていたことである (図5)。30 人以上の比較的多数の講義では受講生は横並びで教員の方を向いているケースもあるが、20 人程度までの広義では椅子を円形に配置して教員と学生で車座になった講義が多く見受けられ、活発な議論が交わされていた。現状筑波大学ではゼミを除けば少人数講義の場合でも教員一人に対し学生達が向かい合うといった以前からの講義スタイルを取っている場合が多く、少しのスタイルの改善で学生のより活発な講義参加を促せられる可能性が感じられた。学類での多人数講義では難しいとしても大学院での少人数講義では比較的容易に導入できると思われる。

PC ルームは比較的小規模だが大学院生を対象にしている端末室であった (図6)。EMSE では基本的にティーチング・アシスタントの職を得られないと個人用机が与えられないため、レポート作成や別項で紹介する Blackboard システムの利用など学生生活に欠かせない場所となっている。なお、学部生の端末室は学生会館に相当する Marvin Center 内や図書館内に存在する。他 EMSE のフロア内には休憩室もあり、飲料や菓子の自動販売機の他、ミネラルウォーターの無料サーバーが設置されているなどの配慮がなされている。



図4 1776G 入口



図5 教室の様子



図6 PC ルーム

3) その他のキャンパス内施設

図書館はキャンパス内に三カ所あり、中央図書館に相当するのが **Melvin Gelman** にある (図2 中央)。地上7階、地下1階の建物で、通常の書架や閲覧室の他、24時間利用可能なPCルームと学習室を備えている。互いに話が出来るエリアと会話禁止のエリアとが分かれており、個々の学生の学習スタイルに対応している。また、**Group Study Room** と呼ばれる少人数学習用の小部屋が各フロアにそれぞれ10室程度ずつあり、グループ演習などの自習用に自由に使用できる。各部屋には黒板もしくはホワイトボードが備えられ、2~3人程度で利用している。すべての部屋がガラス越しに中が見える作りとなっており(図7)、使用中の**Group Study Room** では熱心に議論が交わされ、大変活用されていた。また、図書館内に教室も9室あり、学部生の講義に使用されている。**Group Study Room** は学生にとっても非常に有用な設備とのことであり、本学での学類生教育に大いに参考になる事例であった。

教科書は本学の大学会館に相当する **Marvin Center** 内ブックストアで販売されている。常設の教科書販売コーナーがあり、教科書が学科ごとに陳列されていた(図8)。必要な教科書一式を揃えるにあたり分かりやすく、学生にとって大変利用しやすい販売方式といえる。また **Used Book** も一緒に販売されており、学生が新品と中古本を自由に選んで購入できる環境にある。本学では教科書購入が分かりにくいとの学類生の声をよく耳にするため、今後検討課題とする必要がある。

その他、**Marvin Center** 内にはカフェテリアやコピーサービス、前述の学生用端末室の他、障害を持つ学生の支援サービスである **DSS (Disability Support Services)**、学生活動支援センター (**Student Activities Center**)、校内FM局、果てはボーリング場まで備えられていた。

また、各建物内にあるすべての分別ゴミ箱はデザインが統一され、かつ”**Recycling Center**”との文字が記載されていた。大学のアイデンティティを示すとともに学生のリサイクル意識の啓発に役立っていると感じられた(図9)。



図7 図書館内にある Group Study Room



図8 ブックストア内にある教科書売場



図9 キャンパス内に設置されているリサイクルゴミ箱

4) 評価および筑波大学におけるFDのための提案・課題・検討の可能性

施設面におけるFDのための提案としては、やはり少人数講義の際の講義スタイルの改善が挙げられよう。施設改修などの費用や手間がかからず比較的容易に着手でき効果は非常に大きいものと思われる。具体的な改善実施例としては、大学院での10~15人程度までの少人数講義ならば可動機の講義室または会議室を活用し、教員が学生の輪に加わり学生が互いにディスカッションできる環境を作り出すようにする、などである。

また、GWU図書館内 Group Study Room の有用性を導入すべく、学生が少人数で自由に利用でき議論しやすいスペースの整備も重要と思われる。本学図書館もグループルームと同様のセミナー室を有しているが、学生の認識はかなり低いように見受けられる。既存の有用な設備であり積極的な活用の呼びかけを図書館に要望することも一つの方法と考える。また、例えば総合B棟ラウンジのような大学院施設・設備に対しても、関係学類生も含めた学生への積極的利用の呼びかけを行うことも一例である。学生側のモラルも重要になるが、ある程度パーティションで区切ってホワイトボードを設置するなど、自由に利用でき、なお

かつ少人数で互いにディスカッションできる環境整備も重要であろう。

施設・設備面での FD では環境整備に多大な費用を伴う場合が多い。しかしながら上に記した事柄は低費用で実施可能なものであり、今後検討に値すると言えよう。

8. WEB の使用法 (岡本)

1) GW の Web

2) myGW

3) Blackboard

それぞれの構成, 特徴, システム上の特徴

- ・
- ・

N) 評価および筑波大学における FD 改善のための提案・課題・可能性の検討

(図表)

- ・ 遷移画面

9. 講義の視察 (各参加者の感想 ; 内容は村尾先生が詳述)

- ・ 参加講義 : EMSE232 Crisis and Emergency Management (3 単位)
- ・ 講義概要 :

Concepts and problems of crisis and emergency management. Defining crises, emergencies, and disasters. Developing crisis and contingency plans. The Federal Response Plan and National Contingency Plan, organizing for response, managing the response organization, managing in a turbulent environment, crisis decision making and communication.

- ・ 講義担当教員 : Prof. Fiedrich
- ・ 講義聴講参加者 : 鈴木, 遠藤, 掛谷, 庄司, 村尾

10. 評価および筑波大学における FD 改善のための提案・課題・可能性の検討 (教員)

項目ごとに

- Bulletin : 何が勉強できて何になれるのかよくわかる. →筑波大学にも.
- TA : 教員と一体化している. 職能にも. RA は教員リストに名を連ねている.
- 大学の教育・研究戦略と人事とが有機的に結びついていない.
-

付録 (李, 金沢)

A. 2006 年 11 月 26 日 聞き取り調査 I (関根純子氏) 議事録

B. 2006年11月27日 GWU/ICDRM・筑波大学ファカルティミーティング 議事録

C: 2006年11月28日 学生に対する聞き取り調査 議事録

記録: 金沢

<インタビュー1人目> Sergio さん

——マスターコース、ドクターコースのどちらか

ドクターコースの学生。最後のセメスターです。最後の一つの講義として、統計学的なデータ解析の講義を履修しています。それは統計学的なデータ解析です。

——この大学でマスターコースを修了したか

2年前に修了した。修了するには10講義の単位をとる必要があり、自分は11講義の単位をとった。最終試験を受けるには、修得単位数が10講義分必要。

——この大学を選んだ理由

自分はエンジニア。この大学に来る前、生産管理を学んでいた。この大学に来たのは、**emergency management** を勉強したかったから。エンジニアとして、問題に対するアプローチが、理にかなっていて素晴らしいと思った。

——大学に入る前に働いていたか

働いていた。今は **fulltime student**。学生ビザなので外国人学生として働きながら勉強することは出来ない。

——出身地は

イタリアのペルージャ。でも、シアトルで4年間働いていた。その後ドクターコースに出願し、仕事を辞めた。

——ドクターコースを終えた後のビジョンは

しばらくの間、実地経験 (**field experience**)、就労経験 (**working experience**)、運営経験 (**operational experience**) を積みたい。これらの経験は将来教員になったときに役にたつだろう。そのために国際機関などで働きたい。

——どのように講義の履修登録をするのか

オンラインで可能 (ブラックボード)。個別にアカウントが配られ、自由に講義を登録できる。工学だけでなく他の研究科の講義も選択可能。使い方はとても簡単である。イタリアでは紙で登録していた。ブラックボードは良いシステムだと思う。

——どれくらいの頻度でブラックボードにアクセスするか。

どの講義かによる。

最終試験

論文読みのアサインも論文の提出もオンラインで行う

ブラックボードを好まない教員もいる。ブラックボードを使えば、授業中に使ったパワーポイントをダウンロードし、好きなときに印刷可能であるが、全ての教員がブラックボードを利用しているわけではない。予想だが、半数の教員がブラックボードを利用しているのではないか。

——ブラックボードで履修登録しないと講義資料は手に入らないのですね。興味があるだけでは手に入らないのですね。

その通り。これは大学のポリシーだと思う。資料などのマテリアルを保護したいのではないか。学生も履修登録のために金を払っているし。

——TA になりたければ、どうすればよいのか

一般的か分からないが、自分としては、Graduate Administrative Assistantship(GAA)という競争で勝つことだと思う。

——コミュニケーションの大部分はオンラインなのか。

その通り。ほとんどの TA がブラックボードを通して（オンラインで）

3 回連絡をとる。一つ目は始めにこの講義がどんなもので、学生が何をすればよいのかを説明する。

記録：金沢

<インタビュー 2 人目>Firoz Verjee さん

●この大学を選んだ理由

この大学に来る前はワシントン DC で働いていた。1991年に修士号をスコットランドで取得し、アジアなどで働いた。大学に戻ってきたのは15年後。ワシントン DC の人道的機関（humanitarian organization）で働いていたとき、会議でハラルド教授と出会い、PhD をとるという夢のため、大学に戻ろうと思った。教授は親切に招いてくれて、この研究科にとってもユニークなプログラムがあることを知った。そして大学に戻った。

——スカラシップはどのくらいの人々がもらっているのか。どのようにして申請するのか。

●スカラシップの中には授業料が含まれているのか

Sergio は、授業料を受け取っているはず。大金ではないが助けになっているだろう。

——以前、修士号取得の際に取った単位は、PhD 取得の際の単位として認められるのか(？)

ウェブサイトを見れば分かるように、ドクターコースの必要単位数はマスターコースから30クレジット(10クラス分)必要。マスターコースのときに取ったクラスとは別に単位を取らなければならない。ドクター候補生は最低10クラス分の単位を取っている。学位論文を書くための研究を始める前に、クラスを取り終えなければならない。

● TA システムについてどう思うか

TA の経験がないので何とも言えない。

● どれくらいの頻度でブラックボードにアクセスしているか。

記録：李

3. Deniz Ozkan (Turkey)

4. Chrysi Kastrioti (Greece)

Kanazawa: I'm Kanazawa.

Lee: I'm Lee.

Kanazawa & Lee: Nice to meet you.

Chrysi: I'm Chrysi Kastrioti. Nice to meet you too.

Lee: So, you're on the master course, right?

Chrysi: Yes, I'm full time graduate student.

Lee: Are you also foreign student?

Chrysi: Yes, I'm national student. Actually, I'm from Greece.

Lee: Now, are you second years?

Chrysi: Yes, I'm second years and third semester now. I need another semester to complete my program here.

Lee: Ok. What is your major?

Chrysi: What my concentration in this program is Crisis, Disaster, and Risk Management.

Kanazawa: Did you have any job before coming here?

Chrysi: No, I had a scholarship from Greek Ministry of Foreign Affairs for my first year. And, for my second year, I have a scholarship from private company in Greece.

Lee: Are there many opportunities to apply or get the scholarship?

Chrysi: Do you mean in US.

Lee: US or in this school?

Chrysi: Hum, actually I'm not the way of that. But, I think there're opportunities for students to get the

scholarship or fellowship. But, I think competition is really a fear.

Kanazawa: Why did you choose this school?

Chrysi: Actually, choose this school... My first attraction was location. Washington is the place, all the decisions were made, and very important people are here and you can contact them, and you can get more information. This was my first thought. And, I really like the structure of program. This program is very good point of view of crisis, Disaster, and Risk Management field. Not only for private sector but also the public sector. So, I thought it was attractor and it attracted me, and also faculties.

Lee: What was your major in the undergraduate?

Chrysi: I was studying my time economy in University of PAIWELL in Greece. After things with my undergraduate study, I worked for one year at my university of PAIWELL. There is department of marine accident. That was for one year, and then, I went to England, attending for the master program in marine policy which is related to marine industry.

Chrysi: If you don't understand anything, please feel free. I can do anything good.

Kanazawa & Lee: Thanks. How kind of you.

Lee: What courses are you taking on mainly?

Chrysi: If I want to be completed my course... Do you ask for this semester?

Lee: Not only for this semester, for all.

Chrysi: Actually, I'm going to explain how the structure. I'm sure you know how the structure is. For master degree program, you have to take 4 course requirements everybody has to take. Engineering management, Survey finance, Decision making in survey, Systems in Engineering, these 4 courses we have to take. Then, there are focused requirements. That specifically designed for crisis, disaster, and risk management. And then we have for electives we can choose.

Lee: Do you have any experience as TA, teaching assistance?

Chrysi: No. Actually, I don't.

Lee: Is it available for students of master course?

Chrysi: I'm not quiet well knowing about. I thought, TA for undergraduate students are there final or senior year. But, I don't belong to. So, I don't have these kinds of information.

Kanazawa: Have you used Block Board?

Chrysi: Yes, of course, many times. It is the best way to communicate between students and professors. We can download homework and lectures, everything.

Kanazawa: How often do you access?

Chrysi: Hum, I would say everyday. Block Board... you know it really depends on professors. I mean, the last semester, every professor used Black Board to contact with their students. But, this semester, 3 courses I attend, and only one of them using Block Board. So, that really depends on the professors.

Lee: We already have an interview with 3 persons. They told us only half of professors are using it.

Chrysi: Really? Only half of them... Ok. I didn't know that it is interesting.

Lee: Are there any complaints from students about that?

Chrysi: To be honest with you, I haven't heard any complains about from students that they want to use Black Board, but they can't because professors don't use it.

Lee: (Show the programs) Do you have to take the common courses?

Chrysi: Definitely, you have to take the common courses, and if you are in Crisis, Disaster, and Risk Management, also you have to take focus course requirements. Then, we have to take 4 electives. 2 of them should be on this list, and the other two you can take from any other departments.

Lee: I heard that tuition fee is very expensive here.

Chrysi: I know. Actually GWU is the most expensive. I'm a scholar. So, I wouldn't be here if I didn't have that financial support from my government and private company, they pay my tuition fee. And you know it is not only for tuition fee. It is also the cost of living.

Lee: After finishing the class or lectures, do you evaluate the class? It was good or not, or you need some more other information on that class or...

Chrysi: They fill in the form the end of semester for every class. So, this is actually out times of commenting, purposing things we want, and to get improve, and to evaluate also.

Lee: How do they collect the student's voices? After the evaluation, can you check it is going to be changed?

Chrysi: I think this question that I can no really answer. But, What I can say. It is that good relationship between students and faculties close. If I had a compliant I can go to professor, and I don't agree with that. Then, I would definitely see equals of affection from my professor. So, I think that the voices from students are heard.

Lee: I think it comes from different cultures. Japan and Korea, we are not used to make complaints to professors.

Chrysi: Really? You are absolutely right that. All the time here I compare with my experience in Greece. I would be unthinkable to go to professors and say I don't agree with you. I'd never got my degree.

Lee: What are you going to do after graduating your course?

Chrysi: I'd like to work for European Union. I'm a European. So, it'd be my goal and I would like to work for some years aboard. And then, return to my country and work, probably Administration of Foreign Affair or Administration Marine Apart. My goal is to work for European Union.

Lee: Do you think that the certificate of Master Course is needed to get a job you want?

Chrysi: I think the value of certificate is important and it is really essential to target my goal and career. It's important to have it.

Kanazawa & Lee: Thank you very much.

Chrysi: Very nice. You're welcome.

5. Tsungchi Kao (Twain)

Kao: I'm Tsung-Chi, Kao. I'm the officer of disaster prevention planning division part in Taipei.

Lee: When did you come to the U.S?

Kao: I arrived in United State on June 29th 2006, this year.

Lee: For how long are you going to stay here?

Kao: I will be stayed in here for six months. I will leave United State on December 29th.

Kanazawa: Why did you come to GWU?

Kao: Actually, I'm public servant. And I got the scholarship from Twain Government. The funding is from Twain. That purchase can sponsor me to conducting a research in United State. So, when I knew I got the scholarship, I had to find a research institute. Or either university or private company. Because of my research topic is responding to new clear disaster. So, I choose some program about disaster management in United States. So, I just put keywords into Google to find something. I think George Washington University was the first one, so I chose this school. Also, I think this school is in perfect location. Because of my research topic is responding to new clear disaster, and in United State, new clear disaster is combined with homeland security. So, Washington DC is perfect location for doing that kind of research. New Clear Energy Institute is also located in Washington DC, and also lots of central governments as well. Of course, there are some other universities in United State provided similar programs something like Texas AMM in Texas, Columbia University in New York city, and OO state university an so on. But, compares with George Washington University, the most of them are focused on natural disaster not on new clear disaster and man made disaster. That's why I'm here.

Lee: Do you also attend class?

Kao: Yes.

Lee: How many classes are you attending?

Kao: Now, I'm attending three classes.

Lee: Do you have any impression when you are in the class? Such as any differences?

Kao: It is very interest question. Well, I think compare with Asian students, American students are more active, and they by nature want to speak a lot of things. When in Twain, after lecture the teacher always ask "Do you guys have any question?".

Kanazawa & Lee: Hum.... Quiet.

Kao: Yes, but you know in United State, teachers don't have to ask this kind of question. Because of it's a kind of stupid question for them. Even when teacher's still speaking, they raise their hands up and interrupt. I think it's by nature. They are active to make a question. In Twain, before we make questions we may think this kind of question could be a stupid question. If I ask this kind of question, maybe other classmate will laugh at me, or make fun of me. We're afraid to ask a question.

Lee: What about the teaching way?

Kao: I think almost is same. The most of teacher in Twain, specially in University, they got the PhD in United State. So their teaching way is almost same.

Kanazawa: What about the curriculum system?

Kao: Compare with my graduate school, well I think it's different. Because of ICDRM is focused on

disaster. But, National Twain University, I got my master degree in National Twain University. My graduate institute is Graduate institute of building and planning. So, I think that is more focused on civil participation, also environmental design. But, my professor, one of his research fields is about urban disaster. So you can see the curriculum in my graduate institute is contented lots of things. Disaster management is just one or two courses. ICDRM is just focused on that. So, you can see lots of detail things in ICDRM. But, in my graduate school, we can learn other different issues. Something likes globalization, gender issue. Those kinds of courses are not providing in ICDRM.

Kanazawa: Have you used the Block Board system?

Kao: Yes.

Kanazawa: How often do you access that?

Kao: Well, actually I ask Jack to add my name in his class two weeks ago. Because of I want to download some documents in his class. So, actually from now I just use that system for 3 or 4 times.

Kanazawa: Is there similar system in Twain?

Kao: Yes, we have like that kind of system. But, some professors use that system, and some professors don't use that system, they just put everything in their personal website.

Some of teachers in Twain ask assistant teacher to scan every materials. But, I'm not sure it's against law or not. Assistant teacher scans every materials, and burn up CDs compact disc, and distribute every student before

Ask assistant teacher to scan every materials

But I'm not sure it's against

以上